

フィリピン

国際交流
プログラム



出会いと感動。

フィリピンにおける教育旅行マーケットでの新しい可能性

国際交流

フィリピンをお勧めするポイント



1 英語が通じる。

半世紀に及ぶ米国統治で英語が浸透。国民の多くが英語を話す、公用語が英語。

2 教育レベルが高い。

400年の歴史のある、アジアでもっとも古い大学をはじめ、私立・公立をあわせ約600もの単科、総合大学があります。

3 異文化。

スペインの影響を受けたアジア唯一のキリスト教の価値感が基盤になる。

4 国民性。

マレー系、中国系、スペイン系の影響によりラテン系の陽気な「フィリピン・ホスピタリティー」が特徴。

発展途上国での交流体験が、若者の意識を変えます。



1 グローバルな視点 アジアの近隣諸国との関係は、日本の将来にとってもとても重要な要因です。欧米への偏りすぎた関係から、アジアでの友好関係をもう一度見直す機会になります。フィリピンの国際交流を通じて、若い世代が相互理解への架け橋となります。

2 生活環境の違いを体感する フィリピンでの視察の中で、日本では考えられない、劣悪な環境下での子供達の生活状況を体感し、それを自分達と比較し、自分達の恵まれた環境を認識する。

3 フィリピンの子供達から学ぶ事 彼らのひたむきさや明るさ、たくましさなど、ポジティブなエネルギーを感じます。

4 フィリピンの社会から学ぶ事 貧しくても家族が中心になり、さまざまな機関や教会がサポートする助け合いの精神。

5 人間の触れあい 本当に人なっこの子供達との触れあいを通じて、人間のぬくもりや温かさを体感します。

6 生の英語に触れて 同世代の学生や子供達、ソーシャルワーカーなど、交流の際は、すべて英語のコミュニケーションが中心になります。英語の必要性を肌で感じます。

7 アジアの中の友人 交流を通じて知り合った人々は、それぞれの人にとって特別な意味を持ち、アジアの中であまり知りえなかった、フィリピンと言う国に親しみを感じ、その心が新しい友好関係を築きあげる。



教育旅行&ボランティアツアーの新しい息吹

- 1 大学生を中心とした個人参加型のボランティア体験ツアー 日本
のさまざまな地域から FIT での参加者が多い。
- 2 大学のゼミが中心になり 10 数名での団体。福祉や環境など専門
分野での視察ツアー。
- 3 日本からの宗教団体主催のグループ マザーテレサ等の施設の慰
問とボランティア活動。
- 4 日本の高校生の修学旅行として カオハガン島を中心に環境や地
元の学生交流など。
- 5 専門学校 観光、フライトアテンダント、福祉など専門分野での
現地での研修を含めた内容。
- 6 語学研修 (英語) TOEIC などの集中プログラムを含めた内容。

海外ボランティア参加者体験談

2008年春~2009年夏の参加者から
(地球の歩き方ホームページより)



フィリピンマニラ孤児院交流活動

一生忘れることの出来ない最高の7日間。

東北大学教育学部 2年

こんな価値のある一週間はない。

毎日楽しい事が沢山会ったけれど、涙が止まらない事もありました。

Y大学

この7日間で体験したこと、見たもの、感じたことを
絶対に忘れたくない。

東洋大学社会学部 3年

来年の同じコースをリピートしたい。

慶応大学 商学部 2年

フィリピン カオハガン島交流

滞在できたことで「豊かさ」の概念が変わりました。

匿名 T 大学

胸の温まる一週間でした。

明治大学 商学部 2年

世界には、こんなにも自然がきれいで
人々が温かい場所があるんだと感動。

匿名 S 大学



ボランティア体験

国際交流・国際協力活動



マニラのスラム・エリアの支援活動

マニラ湾のすぐそばにある、アジアの中でも大きなスラムエリア、トンド地区の視察。スーモーキー・マウテンと呼ばれるゴミの集積場から政府の支援で、集合団地として生まれ変わりました。現状でも今なお厳しい生活環境の中、地元の自治会の人々からの説明や、幼稚園の慰問など交流と現状のマニラのスラムエリアの現状を視察します。



マニラのストリートチルドレンの支援活動

マニラの名門バクララン教会が支援しているストリートチルドレンの施設を訪問して、子供達との交流や、遠足などをサポートします。日曜日には、教会のミサの参加や教会が支援している学生達との意見交換会や交流会なども予定しています。



教会が運営している孤児院の支援活動

200年の歴史を持つ、ホスピオ・サンホセ施設は、身障者、老人、乳児などの孤児社会的弱者のための救済施設です。日本より福祉施設の歴史も長く、多くのソーシャルワーカーも居り、宿泊施設もあり、本格的なボランティア体験が可能な施設です。福祉の精神を学び、体験するには、理想的な環境です。

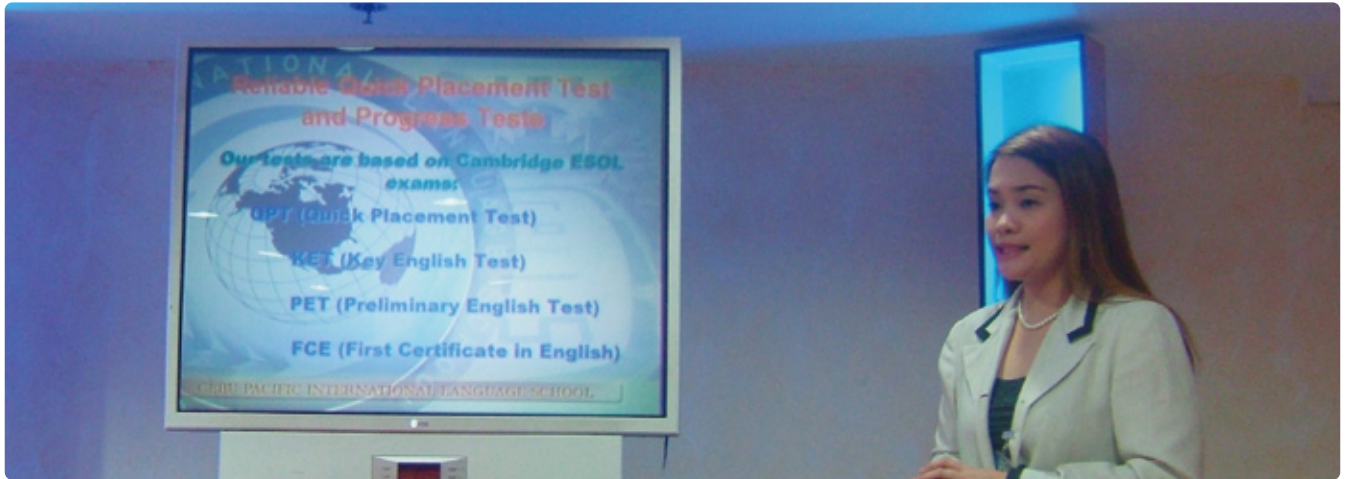


子供達と母親の自立支援活動

DAWANは、日本人の父親の間に生まれたフィリピン人の母親の自立支援と子供達への日本国籍取得の手伝い、日本語教育の提供など、日本と本当に関わりの深い、ボランティア活動をしている団体です。子供達への日本語教育のお手伝いや子供達と交流や慰問、などを予定しています。

英語研修の新しい可能性

マンツーマン授業の充実度



英語の短期集中講座など

現在、韓国から、フィリピンには、年間約 20 万人近い、若者が英語の勉強のために、フィリピンを訪れています。多くの韓国系の語学学校が存在します。欧米の学校と比較しますと、人件費が安いのでマンツーマンでの語学研修が多く、短期間で英語を学ぶには、とても良い環境だと思います。最近では、アメリカのコールセンターの多くがフィリピンにて進出しています。アメリカ人のネイティブの人々と遜色ない英語の能力がその理由です。ホテルやエアラインの予約センターやアメリカの政府（年金）のコールセンターなども含まれております。特に TOEIC の集中講座は、魅力的です。

専門学校での研修旅行（日本では、受ける事の出来ない実習体験）



観光学科等の研修内容

（フライト・アテンダントの研修）短期でのフィリピン航空のトレーニングセンターでの研修が可能です。日本より航空会社としての歴史も古く、英語での短期間の研修 + ボランティアなどを含める事により、より魅力的な海外研修旅行になります。観光業に関しての、ホスピタリティーや接客や語学なども、フィリピン研修での幅の広がりも出るポイントです。観光業に関しては、フィリピン人は、ホテル、エアライン、クルーズ、飲食産業など世界の観光産業に広がっております。彼らが持つ、明るい、ホスピタリティーや奉仕の精神など、これから観光業に就職を予定してる若者達が多く学ぶ点があります。

カオハガン島

何もなくて豊かな南の島



カオハガン島へようこそ

異文化体験と環境学習

本当のエコロジー的 ライフスタイルの検証



現在、（株）ブループラネット・エクスプローラーは、カオハガン島を、教育旅行の体験の場所としてご提案させて頂いております。毎年、少しずつ、賛同を頂いた学校が毎年訪れる様になりました。まずは、島のオーナーである、崎山氏のプロフィールをご紹介します。

プロフィール

講談社インターナショナル取締役 マグロウヒル出版会社副社長の会社の役職に就く。異文化の交流を仕事に30年を過ごす。在米11年、その後、カオハガン島と出会い島を購入した後、1991年に移住。現在約500人の島民とくらししている。主な作品「何もなくて豊かな島」「青い島の住む島」「南十字星に針路をとって」「ゆっくり生きる」



作家：崎山 克彦

「持続可能な島のプロジェクト」 & 「何もなくて豊かな、21世紀の島」

カオハガン島はどこまでも澄んだ珊瑚礁の海に囲まれ、ココ椰子が茂り、さわやかな海が吹き抜ける「南の島」です。多くの人たちが心に抱いている「南の島」への想いを満たしてくれる島です。でもカオハガン島は、いわゆるリゾートではありません。そこに住んでいる約500人の島民たちと一緒に暮らし、一緒に考えようという「場」なのです。ゆったりと心休まる場所。異なった文化を持つ人たちと会える場所。大きな自然と肌を接して、人間と自然との関係を考える場所。楽しい人たちと会える場所。そして、ゆっくりと、21世紀のあるべき価値感を考えることの出来る場所。そんな場所にしたいと思っています。カオハガン島は、北緯十度、珊瑚礁に囲まれた熱帯の島です。フィリピン共和国の中部のセブ島とボホール島の間にあります。美しい、真珠の首飾りのような「オランゴ環礁」の縁にのった、一粒の真珠の様な島です。面積は、約5万平米。500人くらいの島民が暮らしています。カオハガン島を「何もなくて豊かな、21世紀の島」にしたいと、島民たちと一緒にいろいろな活動をしています。私たちは、その活動全体を「持続可能な島」プロジェクトと名付けています。その中心になっているのが、南の宿「カオハガン・ハウス」とNGO「南の島から」なのです。カオハガン島にご興味をお持ちになっていただき、ありがとうございました。



カオハガン島にて
崎山 克彦

カオハガンのエコロジーな考え方のひろがり 未来をひらく島

1

2009年夏 NHK 製作「ABU 未来への航海」は地球の海を守るをテーマに、フィリピンのカオハガン島にて環境学習番組を撮影しました。アジアの各国々の高校生が参加する国際的な教育番組です。



2

2009年夏 東邦大学の地球環境を海洋からの視点で研究している風呂田教授のゼミの研究旅行でカオハガン島に滞在しました。

3

2009年10月に京都の立命館大学の平和ミュージアムで「カオハガン・キルト展」が開催、カオハガンキルトを「持続可能な経済的自立のあゆみ」という視点で開催されました。



4

カオハガン島南側の沖合いに海の自然保護区、「カオハガン島 熱帯珊瑚保護区」を育てるために、日本にてNPOが誕生しました。NPO カオハガン海洋保護区です。

5

2010年、秋に立命館大学の付属の高校生約80名が2班で、カオハガン島を訪れる事が決まりました。現在、京都、岡山の高校が2校、教育旅行の場所としてカオハガンを選んで頂きました。全国に拡がりを見せています。地球の歩き方の海外ボランティアツアーでも取り上げられ、日本の自治体でのスタディーツアーなど、今後も多くの可能性があると思います。

ユネスコ世界危機遺産の保全活動と平和教育

エコツアーを利用した新たな棚田の保全活動



ルソン島北部コルディアの棚田郡は、2000年以上の先住民族のイフガオ族による、まさに血の結晶と呼べる、棚田は、天国に続く 階段と呼ばれ、1995年にユネスコ文化遺産に認定されましたしかし、若者の農業離れ等で、棚田の維持が難しい状況になり、2001年にユネスコ危機遺産リストとなり、日本政府等からの支援も始まりました。元々、この北部ルソンのエリアは、太平洋戦争時における激戦地のひとつであり数多くの、現地住民や日本の軍人や軍属の皆さんが眠る、「暮標なき墓地」でもあります。世界遺産の保全活動と日本の戦争の歴史に関して、もう一度目を向け、次の世代に引継ぐ事柄だと思います。現時点で、棚田の保全活動は、フィリピン政府だけでなく、国際社会からの協力が必要な状況です。学校単位での、世界遺産の保全活動は、本当の意味での国際協力と地道なボランティア活動が必要な大がかりなプロジェクトです。新しい試みとしては、棚田でのハイキングやエコツアー 地元の新しい、産業としても今後の新しい可能性のひとつです。ヨーロッパからは、すでに多くのハイカーが訪れています。

学校交流

フレンドリーな国民性でスムーズな交流



サント・トーマス大学 (マニラ)

フィリピンの大学は、アジアの中でも歴史が古く、スペイン統治時代に遡り400年前から、神学校としてカソリックスクールとしてスタートしました。マニラでは、サント・トーマス大学が総合大学の私立大学としては、有名で、太平洋戦争では、日本軍の管理下、捕虜収容所として利用されました。歴史的なビルが現在でも利用されています。

サンカルロス大学 (セブ)

カオハガン島での珊瑚自然保護区の管理や保全に関して、海洋学部がサポートしています。セブ島での日本語教育の中心的な大学で、親日家の教授も多く、日本の学校の受け入れも積極的です。



会社・プロフィール

2011年、株式会社ブループラネット・エクスプローラは、フィリピンのツアーオペレーター事業をスタートしました。専門分野を、国際交流&教育旅行、ボランティアツアーに絞りこみ、フィリピンの魅力と感動を提供いたします。担当は、25年以上、フィリピンのツアーオペレーターの経験を積んだ、南部 浩が責任者として統括いたします。フィリピンの中での教育旅行やボランティアツアーのパイオニアとして、特に、若い人々とのフィリピンへの国際交流を通じて、新しいマーケットの開拓にあたります。ここ数年のボランティアツアーでは、参加者のほとんどが大学生の女性が中心で、その手配や企画を通じて、今までに無いマーケットの可能性と、参加者の本当の感動が次のツアーに口コミで伝わる事を感じました。そして、今の日本には、失われつつある、家族の絆や、社会の助け合い、生きる力強さなど、フィリピンから学ぶ点がいかに多いのか感じました。最初は、ボランティアツアーとして、フィリピンの恵まれない人々への奉仕やボランティアツアーとしてスタートしましたが、最近では、相互にお互いが必要としあい、現地の受け入れ側も本当に喜び、日本からの参加者にも感動と新たな発見がある、本当に意義のあるツアーの提案が可能になりました。これからも、少しでも日本とフィリピンの、新しい、若い世代の架け橋になればと思います。湘南の地から、新しいフィリピンの魅力と感動を発信して行きます。



(問い合わせ先) <受付:月~金 09:30-18:30>

株式会社 ブループラネット・エクスプローラー

〒248-0024 神奈川県鎌倉市稲村ヶ崎3-13-36
TEL:0467-84-9871 FAX:0467-84-9872
E-MAIL: nambu@blueplanet-e.co.jp
www.blueplanet-e.co.jp

(海外・ツアーオペレーター業務)
ハワイ&フィリピン

**BLUE PLANET
EXPLORER**

(エコツーリズム&教育旅行) 社団法人OTOA 正会員